

モビルワーカー MW-01 01式 後期型(マッシュ機)
昼夜の区別がない、常闇のダーク・コロニーに置かれた演習場は一つ目巨人たちの闘技場だ。人工の大地には、血ではなく合成オイルが染み込み、骨の代わりに碎かれたバースが埋まっていた。周囲に設置された投光器は光量が十分ではなく、マッシュは「モビルワーカー MW-01 01式 後期型」の胸にあるライトを点灯させた。数瞬後、光がまだ及ばない暗闇から地響きを連れて青い同型機が現れた。乗り手はランバ・ラル大尉だ。鳴り響く駆動音と金属が擦れ合う音のミキシングは巨人の咆哮のようでもあり、その胸に収まるマッシュもランバも吼えた。

2機は速度を緩めることなく突進し激突。後ろへ弾けた2機は、しかしバランスを崩すことなく跳みとどまる。マッシュ機はクローラーをランバ機に振り下ろす。ランバ機は左腕で防御しつづクローラーをフックの要領で突き出した。直撃は免れたものの、バランスを崩したマッシュ機はよろめきながら後退。その隙を逃さなかつたランバ機は、次の攻撃を繰り出す。受け止めたマッシュ機は左腕にダメージ。マッシュもシートに叩きつけられる。「被衝撃係数1.2メガ」「瞬間加速度80万ガル」「テストユニット02、左腕第一関節、異常発生!!」

技官の声はすでに意識の外で、マッシュはまだ動く右腕のクローラーを振り下ろした。肩でそれを受け止めたランバ機は、アッパーカットのごとくクローラーを上へと突き上げた。マッシュ機の頭部は吹き飛び、その余波で本体も転倒した。

模擬戦が終了し、管制室のドズルは満足げな笑みを浮かべた。一度の模擬戦で両機はボロボロ、課題はまだ山積みだ。しかしこのモビルスーツ計画こそが、独立戦争におけるジオン公国軍の切り札になっていくのであった。

※画像はイメージです。



GIMMICK ギミック REAR VIEW リアビュー FRONT VIEW フロントビュー



MARKING マーキング



COLOR GUIDE
※よりリアルに仕上げたい場合は、こちらの基本色をご覧ください。※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
※カラー配色は参考値であり、画像とカラーガイドの色は異なる場合があります。

本体等: オレンジ(50%)+サーモンピンク(30%) +ホワイト(10%)+グレー(10%)	関節等: マホガニー(45%)+ホワイト(25%) +グレー(20%)+カーキ(10%)	腕等: グレー(80%) +ブラック(20%)	バックパック等: ウッドブラウン(60%)+ホワイト(25%) +ブラック(15%)	ヘッドライト等: シルバー(100%) +クリアブルー(少量)
ストライプ イエロー部: イエロー(100%) +オレンジ(少量)	ストライプ ブラック部: ブラック(100%)	メインカメラ等: ピンク(100%)	キャノピー等: グレー(65%) +ホワイト(35%)	

●ここに掲載している情報は2015年10月現在のものです。

HG
GUNDAM THE ORIGIN
1/144 SCALE

**機動戦士ガンダム
THE ORIGIN**
ジ・オリジン

MOBILE WORKER MW-01 MODEL 01 LATE TYPE (MASH)
AUTONOMOUS REPUBLIC OF ZEON PROTOTYPE HUMANOID MOBILE WEAPON
HG 1/144 「モビルワーカー MW-01 01式 後期型(マッシュ機)」

●画像の完成品は塗装してあります。●この商品には「HG 1/144 モビルワーカー MW-01 01式 後期型(マッシュ機)」が1体のみ入っています。

BANDAI 2015 MADE IN JAPAN ●画像と商品とは多少異なりますのでご了承ください。

0201877

BANDAI

△警告(けいこく)

保護者の方へ 必ずお読みください。

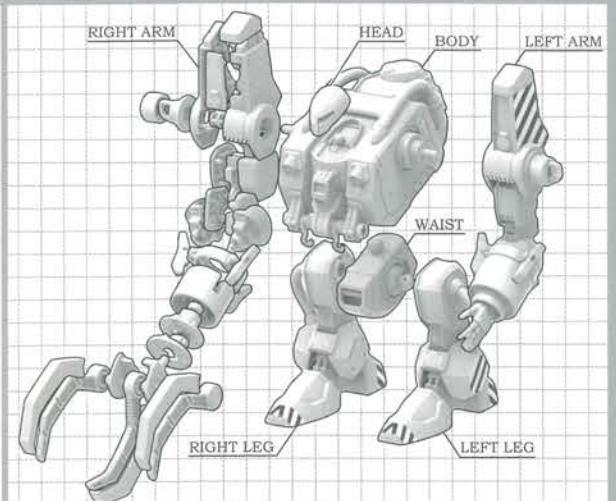
- 小部品があります。誤飲・窒息の危険がありますので、3才未満のお子様には絶対に与えないでください。

△注意(ちゅうい)

- 縁部が鋭い箇所がありますので、注意してください。
- 先端が尖っている箇所がありますので、注意してください。
- 部品はきれいに切り取り、切り取ったあとのクズは捨ててください。
- 袋を頭からかぶったり、顔を覆ったりしないでください。
窒息する恐れがあります。

《組み立てる時の注意》

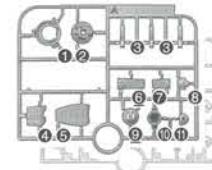
- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。



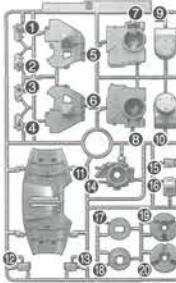
PARTS LIST

*印は使用しないパーツです。

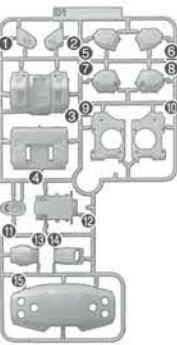
Aパート (x2)
(スチロール樹脂:PS)



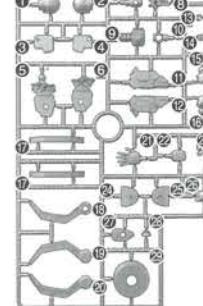
Bパート
(スチロール樹脂:PS)



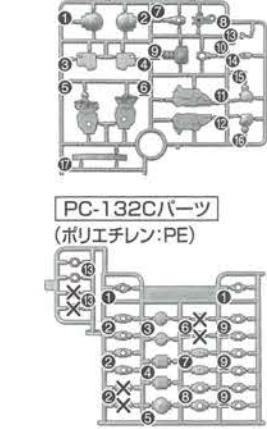
D1パート
(スチロール樹脂:PS)



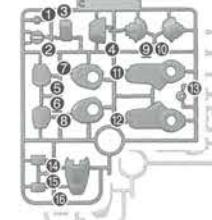
E1パート (スチロール樹脂:PS)



E2パート (スチロール樹脂:PS)



Cパート (x2)
(スチロール樹脂:PS)



D2パート
(合成ゴム:TPE)



ホイルシール.....1
マーキングシール.....1

ポリキャップのすれ、曲がりに注意!

各部品は、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。



はさみ込むパーツの入れ忘れに注意!



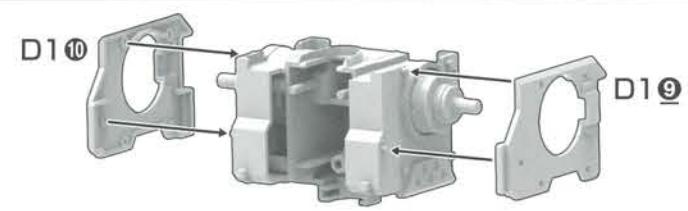
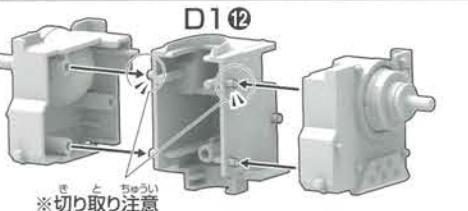
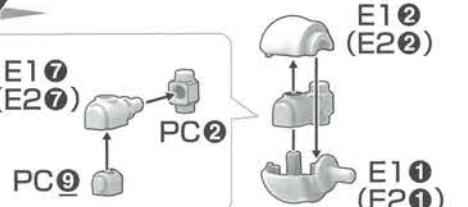
せつめいしょ
説明書をよく見て、はさみ込む
パーツを確認してください。
Point
はさみ込む位置も
よく確認しましょう。

PC部品は軟質素材のため、
つぶさないようにまっすぐ
取り付けましょう。

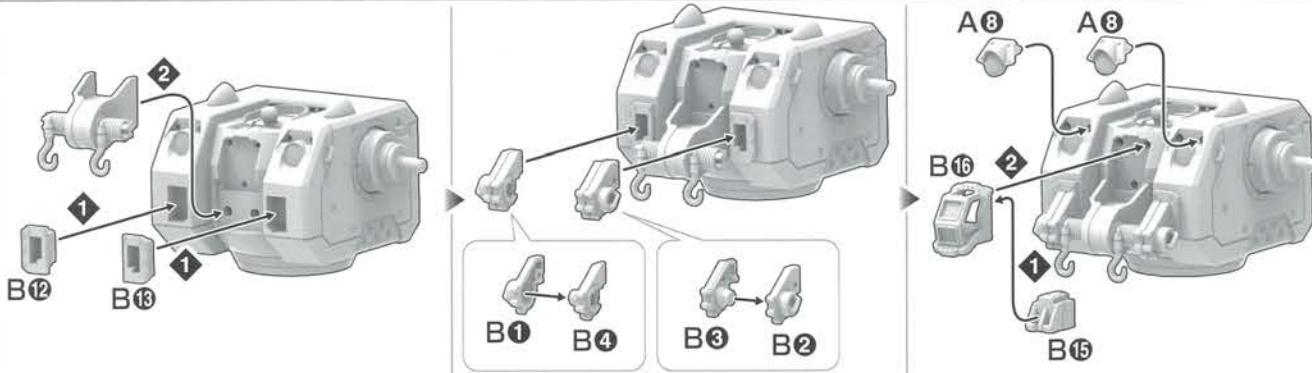
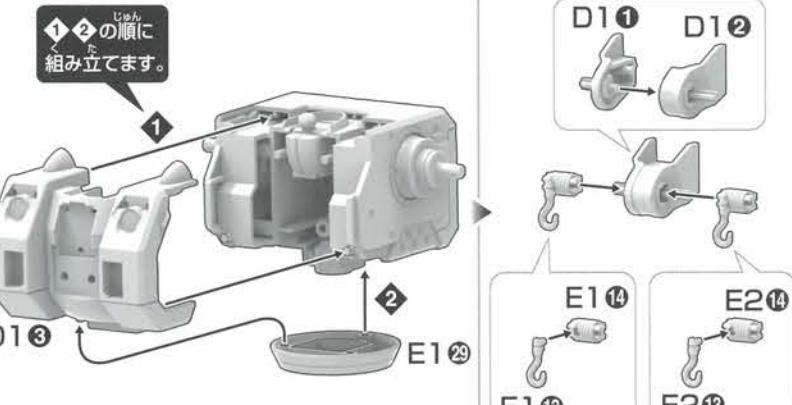
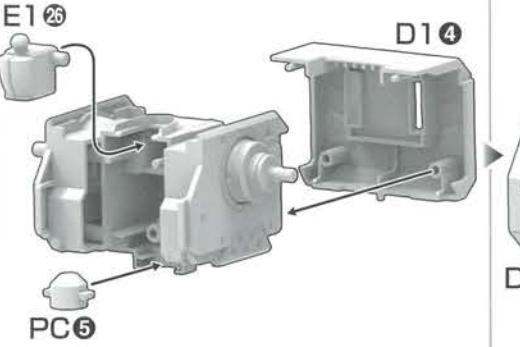
くみ立て すちゅうとうじょう
※組立図中に登場するアイコンは欄外に説明があります。

BODY

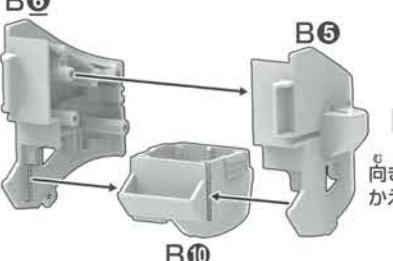
x2



E1⑥



B⑥

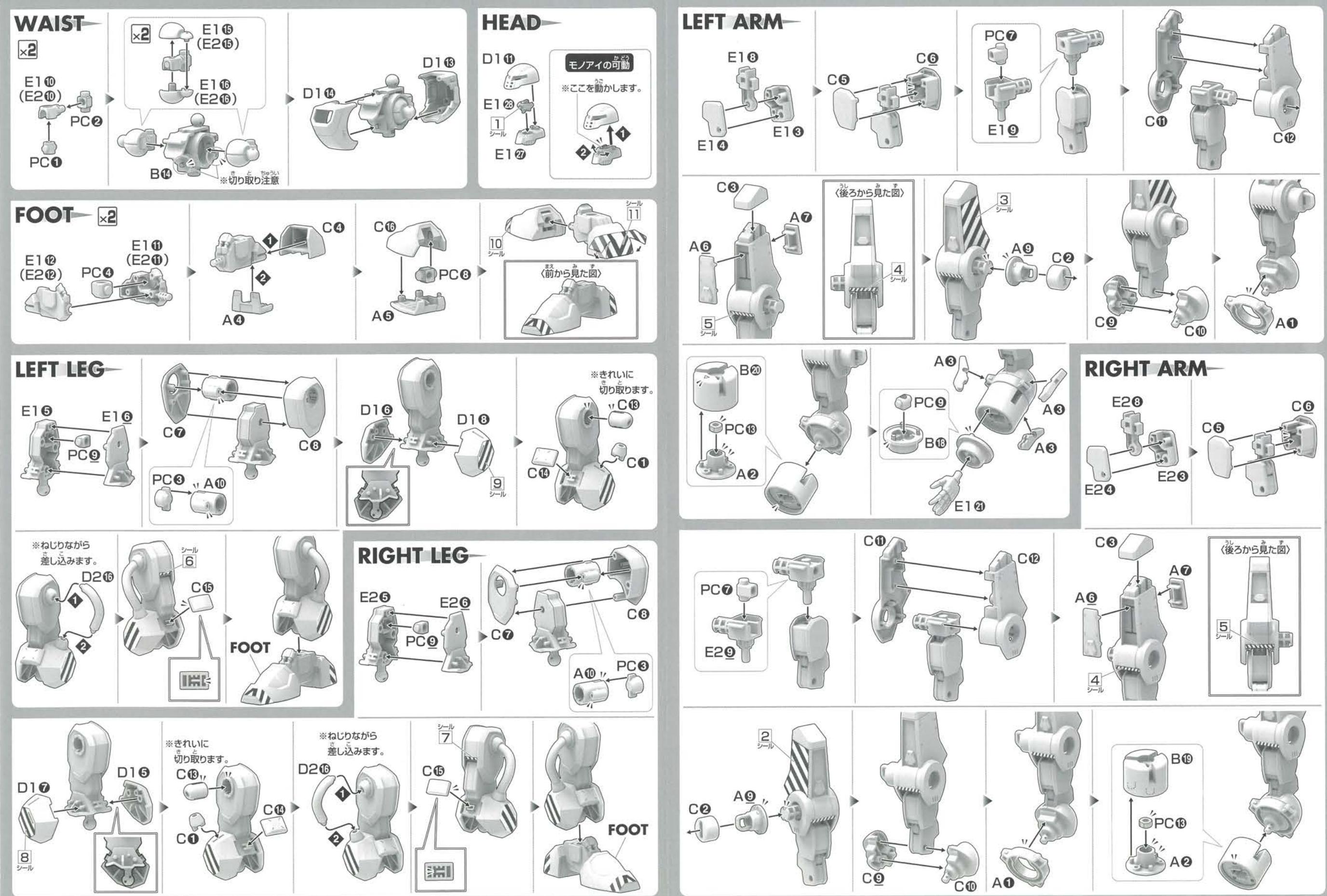


x2

部品を複数の個数作ります

部品の向きに注意します

両側に同じ部品を取り付けます



MOBILE WORKER MW-01 MODEL 01 LATE TYPE (MASH) モビルワーカー MW-01 01式 後期型(マッシュ機)

軍靴の巻きに包まれていたジオン自治共和国では、来るべき独立戦争に備え、新兵器の開発が急がれていた。そこでドズル大佐(当時)が極秘で進めるプロジェクトが存在した。それが、ミノフスキ粒子が散布された戦闘宙域で真価を発揮する、人型機動兵器「モビルスーツ」の開発であった。モビルスーツの計画当初は「月面開拓用の人型作業機械を開発することを隠れ蓑に進められ、名称も「モビルワーカー」と呼称されていた。プロジェクトはサイド3本国のエキストラ・バンチ、通称「ダーク・コロニー」で進められ、以降ダーク・コロニーが兵器開発の中核となっていました。初期の試作実験機「モビルワーカーMW-01 01式 初期型」は、肥大化した腕部に短い脚部、単眼型可動式カメラ「モノアイ」が特徴で、動力源である融合炉は本体に収まりきらず剥き出しで背中に搭載されていた

た。洗練された兵器と呼ぶには程遠いものであった。その改良発展型である「モビルワーカーMW-01 01式 後期型」は、基本構造は初期型から大きく変わらないものの、細部にわたって変更が加えられている。前腕部はモジュール化され、マニピュレーターなど各種アタッチメントに交換可能で、宇宙空間での姿勢制御実験に向けて推進器などの増設も行われている。のちにエースパイロットと呼ばれた黒い三連星やランバ・ラルも開発に参加しており、格闘実験ではマッシュ機はオレンジに、ランバ機は青に塗装された。

後期型はさまざまな実験データを元に改良が加えられたが、動力源の課題は残されたままであった。しかし技術顧問のミノフスキ博士が融合炉の小型化を実現させたことで、開発計画は大きく前進することになる。



マッシュ

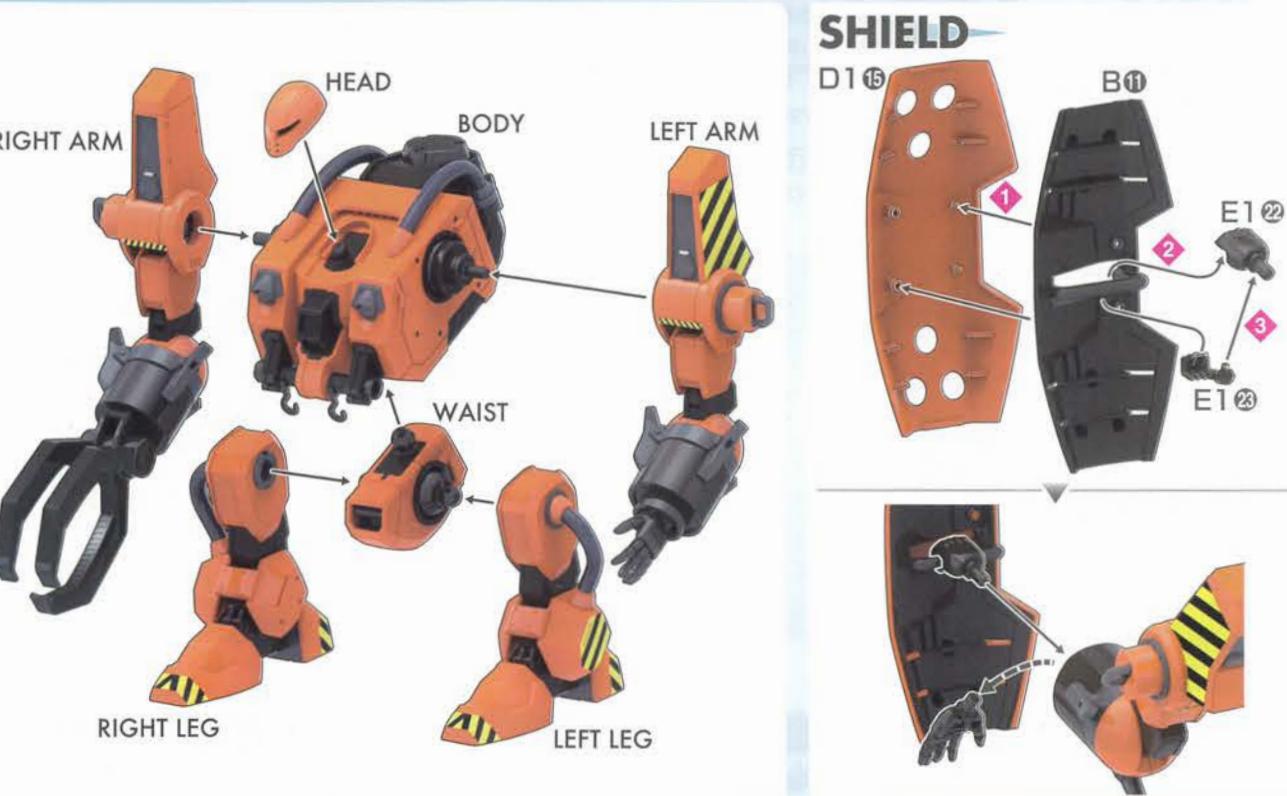
ジオン自治共和国国防軍に所属する兵士。ムンゾ防衛隊時代から素行の悪さが目立つ無類漢であったが、ガイアとオルテガとともにモビルワーカーのテストパイロットに抜擢される。階級も軍曹に昇進。先達者がいらないモビルスーツ開発で、パイロットとしての能力を開花させていった。開戦後もルウム戦役などで目覚しい活躍を見せ、ガイア、オルテガとの見事な連携攻撃から、「黒い三連星」の異名で呼ばれるようになる。

SPEC

型式番号：MW-01
全 高：16.7m
頭頂高：13.88m
全 幅：14.6m
武 装：クロ

※データは劇中の設定です。

●画像はバンダイプラモデルアクションベース2(別売り)を使用しています。



頭部、肩部、股関節を引き出すと、可動範囲が広がります。



バンダイプラモデル
アクションベース2(別売り)
差し込み用(丸型)BA4-A⑨
にも対応しています。

GIMMICK

(アタッチメント交換)

機動戦士ガンダム
THE ORIGIN
004 HG1/144
プロトタイプレフ
せんじゅつけいようき ベコラ
戦闘実証機(別売り)
前腕部と付け替えることが
できます。

